

本堂及び書院の裏庭として造られた枯山水の石庭が残されています。廃寺になった後、石庭はツツジなどに覆われ、その姿を満足に現すことが出来ませんでしたが、昭和44年、東京農業大学に在学中の大村市出身の一学生により発見されたことから、庭園研究家の目にとまり、その価値が全国的に認められました。

山の斜面を利用して、これを築山風に見立て、高さ8m、幅50mの斜面に青石を主材とした約400個もの自然石を使い、三尊方式の石組みを基本とした立石が配置されています。中央部及び左側には、数段の水落石を用いた豪華な枯滝があります。水落石には白色の石を用いており、いかにも自然の滝の水が落ちているようです。規模の雄大さと傑出した石組は、江戸初期の庭園様式を伝えるものとして国の名勝に指定されております。



《交通のご案内》

- JR 大村線大村駅より徒歩10分
- 高速長崎道大村インターより...車で7分
- 長崎空港より車で8分

国指定名勝 旧円融寺庭園

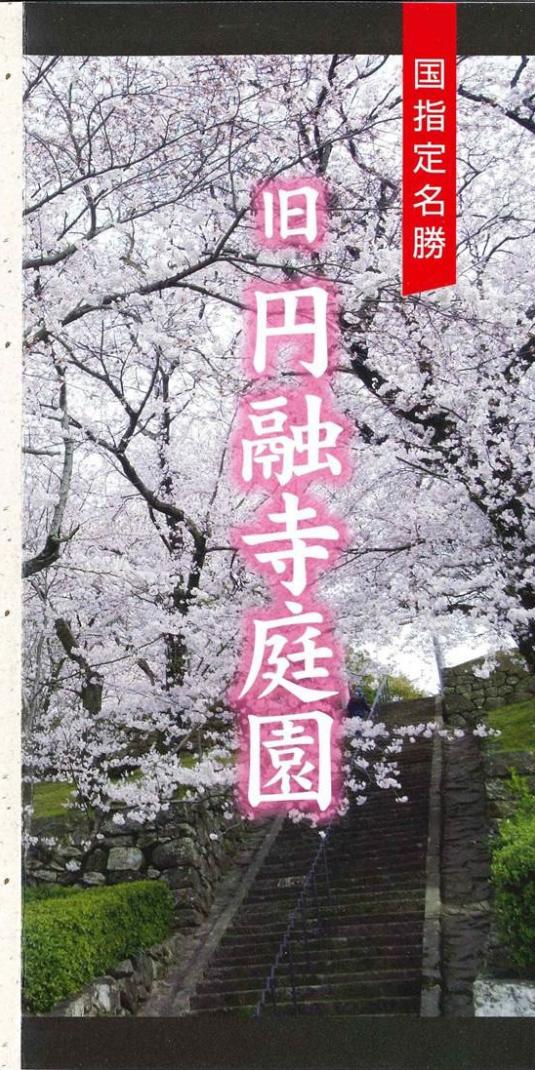
所在地 〒856-0834 長崎県大村市玖島2丁目505番地

大村ロータリークラブが携わった 園内整備事業一覧

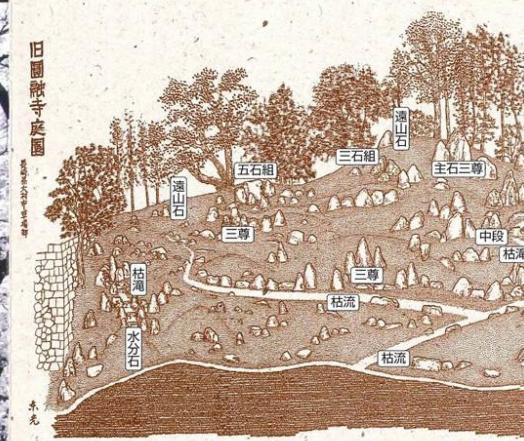
- | | |
|--------------|---------------|
| ◎上り口の石段整備 | ◎手摺の設置 |
| ◎つつじの植栽 | ◎日月池のしゅんせつ |
| ◎庭園の手入れ | ◎庭園案内図陶板の設置 |
| ◎やすらぎの石座 | ◎人に優しい波型の手摺設置 |
| ◎庭園発見者による講演会 | ◎庭園案内パンフレット作成 |
| ◎毎年の園内清掃など | (昭和45年～平成27年) |



発行 大村ロータリークラブ (クラブ創立55周年記念事業)
2015.4.18



国指定名勝



天台宗松林山大乘院円融寺は、承応元年（1652年）大村四代藩主大村純長により、徳川家光の位牌を祭るために創建された寺院で、その後、歴代将軍の位牌が祭られ、明治元年に廃寺となりました。

純長は幕府勘定奉行伊丹勝長の四男で、先代藩主純信の養子となりましたが、幕府の正式な許可がおりる前に純信が亡くなつたために大村藩は存続の危機を迎きました。将軍家光の裁可により相続が許され、藩の存続がなされたため、その恩義に報いるため、特に幕府に願い出て建てられたものです。

この様な寺は、御三家及び五万石以上の大名に限り幕府は許しましたが、純長の強い懇願によつてできたと言われています。

建設に当っては、当時、五島灘一帯にかけての捕鯨業で莫大な財を成していた、深澤儀太夫の寄進により、その費用が賄われたと伝えられています。



中央部の石組

中心に仏様を表す三尊石組とその右下からイナズマ型に流れる滝石組は力強く一番の見どころです。
中央正面の芝生の中には三尊石組を拌む礼拝石が据えてあります。



左側の滝石組

庭園左側の7段に落ちる滝石組、水の落ちる部分は白石の石が用いられ、いかにも自然の水が落ちているように見えます。



ゆるやかな流れ

左手より中央にかけて、ゆるやかな水の流れを白玉石を敷いて表現し、中央部で滝からの流れと合流し、大海へ出るという雄大な大自然が表現されています。



大村護國神社

円融寺は、明治時代に入り、廃寺となり、戊辰戦争以降の戦没者を祀る場所となり、大村護国神社という名前になりました。



日の池

左手には円形をした「日の池」があり、桜吹雪が池の水面に浮かぶ姿も絶景です。



月の池

庭園内には、鳥居をくぐると、右手に三日月の形をした月の池があります。正面の階段を上って途中で振り返ると、池の形がはっきり分かりります。



大村藩勤王三十七士の碑

庭園脇に碑が並んでいます。幕末には勤王派として、薩長との提携を進め、倒幕運動に加わり、明治維新後は、新政府で数々の要職に就き活躍した人たちです。



戊辰戦争戦死者の碑

石庭の前には、戊辰戦争で亡くなった人の碑があります。
この中には、秋田の刈和野の戦いで鼓手として壮烈な最期を遂げ、歴史教育の範となった15歳の浜田謹吾少年の碑もあります。

庭園案内図

